

# 高熱起こす炎症解明

## 東大、インフル感染時に

性能向上に  
応用性  
クワンチン  
向向上に

東京大学の戸猛志准教授らは、インフルエンザウイルスに感染したときに起こる炎症反応の仕組みを解明した。ウイルスが体の中に入ってきたときに、細胞内のエネルギー工場にあたる部分に結合して、炎症を引き起こしていた。高熱を引き起こす過剰な炎症を抑える治療薬の開発などに役立つという。成果は米科学アカデミー紀要（電子版）に発表した。

詳細に調べた。細胞内の遺伝子操作したりした細胞では、炎症物質をうまく作れなかった。研究グループによると、アスベスト（石綿）や肺がん、痛風の炎症もクチンの性能を高めたという。今回の成果を応用すれば、過剰な炎症を抑えたり、逆に炎症を促してクチンの性能を高めたという。

「NLRP3」とい

たんばく質などが集

し、炎症物質を作る。し

かしたたんばく質がどこで

集合体を作るかが分かつ

ていなかった。

研究グループはマウス

の免疫細胞内のNLRP

3を抗体で集めて、くっ

ついているたんばく質を

集

合

体

を

作

る

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か